

Lesson 6 「形容詞①」

ねらい

形容詞のつづりと発音を理解させる。

形容詞の使い方 (aと名詞の間に置くこと) を理解させる。

※単語編Book①Lesson 4のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L5 ① (011) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
20分	L6 ①② (015) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 発音練習の順に行います。 宿題 (③の単語を書いてくること) を出します。 単語の書き方について、文字と文字の間は空けず、語と語の間は少し空けることを確認させます。 L6 ①③ (016) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・発音練習は一斉→グループ→個人 (順番) とパターンを変えて複数回行いましょう。 ・余裕があれば、先生が英語を発音して生徒に日本語の意味を答えさせたり、逆に先生が日本語を言って生徒に英語を発音させたりしてもよいでしょう。 (例 先生「beautiful」 生徒「美しい」) ・余裕があれば、ピクチャーカードを使って先生の間違いを直させましょう。(例 先生「[[美しい]のカードを示して) Busy?」 生徒「No. Beautiful.」)
15分	L6 ②の1 (a lucky girl) ～ 4 (a cute cat) について、最初に先生が発音し、次に生徒に発音させます。 〈紫色の枠の語【形容詞】 + 水色の枠の語【名詞】〉という単語の並べ方を説明し、日本語と同じ語順であることを理解させます。 各生徒に、①②と③から紫色の枠の語【形容詞】と水色の枠の語【名詞】を1つずつ選ばせて、〈a + 形容詞 + 名詞〉の形で発音させ、意味を確認させます。 反応が鈍い場合や時間が足りない場合は 、先生が見本として形容詞を変えた組合せを発音し、生徒に繰り返させます。 たとえば、先生が1の lucky を busy にかえて「a busy girl」と言い、生徒に「a busy girl」を繰り返させます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて先生の発音に集中させましょう。 ・次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・1～4の発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとしましょう。 ・各生徒に形容詞と名詞を1つずつ選ばせて発音 [発表] させるときは、どういう意味か、意味が合っているかを他の生徒に答えさせたり、できた語句の発音練習を一斉で行ったりして、他の生徒も活動できるようにしましょう。 ・a hungry flower 「おなかですいた花」等の不適切な組合せが発表されても「おもしろいね!」と言うにとどめ、否定 [修正] しないようにしましょう。 ・余裕があれば、先生がピクチャーカードを使って変えた単語を示し、生徒に言わせましょう。たとえば、生徒が a lucky girl と言ったあとに、先生が busy のカードを示し、生徒に a busy girl と言わせます。
5分 (まとめ)	㉔ (クイズ) に取り組みせ、答え合わせをします。 正解を発音させます。 宿題 (①の音声を聞いて、聞いた曜日に○をつけてくること) を出します。	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は、①にヒントがあることを教えて、正解を見つけさせましょう。 ・正解の発音練習は一斉で行いましょう。 ・㉔ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。

Lesson 7 「名詞・形容詞①」

ねらい

色を表す語のつづりと発音を理解させ、形容詞の使い方に慣れさせる。
like「好き」、want「ほしい」という表現を理解させる。

※単語編Book①Lesson 5のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L6 ①④ (015) と ⑤ (016) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (③の単語を書いてきたかと音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
20分	L7 ①④ (017) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 発音練習の順に行います。 宿題 (③の単語を書いてくること) を出します。 単語の書き方について、文字と文字の間は空けず、語と語の間は少し空けることを確認させます。 L7 ①⑤ (018) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・発音練習は一斉→グループ→個人 (順番) とパターンを変えて複数回行いましょう。 ・余裕があれば、先生が英語を発音して生徒に日本語の意味を答えさせたり、逆に先生が日本語を言って生徒に英語を発音させたりしてもよいでしょう。 (例 先生「black」 生徒「黒」) ・余裕があれば、ピクチャーカードを使って先生の間違いを直させてもよいでしょう。(例 先生「[青のカードを見せて] Black?」 生徒「No. Blue.」) ・余裕があれば、教室の中にあるものの色を言わせてみましょう。国旗を使うと、「We Can!」対応の授業になります。 (例 先生「What color is this?」 生徒「Red.」)
15分	L7 ②の1 (a yellow bag) ～ 4 (want blue shoes) について、最初に先生が発音し、次に生徒に発音させます。 〈紫色の枠の語【形容詞】+水色の枠の語【名詞】〉と〈緑色の枠の語【動詞】+水色の枠の語【名詞】〉と〈緑色の枠の語【動詞】+紫色の枠の語【形容詞】+水色の枠の語【名詞】〉という単語の並べ方を説明します。 各生徒に、①④と⑤から色を表す語【名詞】【形容詞】と水色の枠の語【名詞】を1つずつ選ばせて、〈like + 名詞〉と〈want (a) + 形容詞 + 名詞〉の形で発音させ、意味を確認させます。 orange の場合は <u>an</u> orange ～とするよう注意させます。 反応が鈍い場合や時間が足りない場合は 、先生が見本として色を変えた組合せを発音し、生徒に繰り返させます。たとえば、先生が1のyellowをredにかえて「a red bag」と言い、生徒に「a red bag」を繰り返させます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて先生の発音に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・1～4の発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとしましょう。 ・各生徒に形容詞と名詞を1つずつ選ばせて発音 [発表] させるときは、どういう意味か、意味が合っているかを他の生徒に答えさせたり、できた語句の発音練習を一斉で行ったりして、他の生徒も活動できるようにしましょう。 ・〈want × a + 形容詞 + pants/shoes / socks〉「○色のズボン [くつ (たち) / ソックス (たち)]」のように複数形にaをつけてしまった場合は、「aはいらないよ!」と言って、aを削除して発音練習をさせましょう。 ・余裕があれば、先生がピクチャーカードを使って変えたい単語を示し、生徒に言わせましょう。たとえば、生徒がa yellow bagと言ったあとに、先生がredのカードを示し、生徒にa red bagと言わせます。
5分 (まとめ)	㉞ (クイズ) に取り組みせ、答え合わせをします。 正解を発音させます。 宿題 (①の音声を聞いて、聞いた曜日に○をつけること) を出します。	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は、①にヒントがあることを教えて、正解を見つけさせましょう。 ・正解の発音練習は一斉で行いましょう。 ・㉞ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。

Lesson 8 「名詞②」

ねらい

くだものを表す語のつづりと発音を理解させ、名詞には複数形があることを理解させる。
don't like 「好きではない」という表現を理解させる。

※単語編Book①Lesson 6のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L7 ①④ (017) と ⑤ (018) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (③の単語を書いたか音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
20分	L8 ①④ (019) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 発音練習の順に行います。 宿題 (③の単語を書いてくること) を出します。 単語の書き方について、文字と文字の間は空けず、語と語の間は少し空けることを確認させます。 L8 ①⑤ (020) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・発音練習は一斉→グループ→個人(順番)とパターンを変えて複数回行いましょう。 ・余裕があれば、先生が英語を発音して生徒に日本語の意味を答えさせたり、逆に先生が日本語を言って生徒に英語を発音させたりしてもよいでしょう。(例 先生「apple」 生徒「りんご」) ・余裕があれば、ピクチャーカードを使って先生の間違いを直させてもよいでしょう。(例 先生「[さくらんぼのカードを見せて] Apple?」 生徒「No. Cherry.」)
15分	L8 ②の1 (like bananas) ～ 4 (like lemon pie) について、最初に先生が発音し、生徒が発音させます。 〈like + 名詞の複数形〉と 〈don't like + 名詞の複数形〉、そして〈水色の枠の語【名詞】 + 水色の枠の語【名詞】〉という単語の並べ方を説明し、赤色の枠の語【助動詞】や緑色の枠の語【動詞】の位置が日本語と異なることを理解させます。 各生徒に、①④と⑤から like か don't like とくだものを表す語【複数形】かくだものを表す語【単数形】と、juice か pie を選ばせて、〈(don't) like + くだものを表す語【複数形】〉か 〈(don't) like + くだものを表す語【単数形】 + juice か pie〉の形で発音させ、意味を確認させます。 反応が鈍い場合や時間が足りない場合は 、先生が見本として一部を変えた組合せを発音し、生徒に繰り返させます。たとえば、先生が1のbananasをapplesにかえて「like apples」と言い、生徒に「like apples」を繰り返させます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて先生の発音に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・1～4の発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとしましょう。 ・各生徒に形容詞と名詞を1つずつ選ばせて発音[発表]させるときは、どういう意味か、意味が合っているかを他の生徒に答えさせたり、できた語句の発音練習を一斉で行ったりして、他の生徒も活動できるようにしましょう。 ・〈^xapples+juice[pie]〉のように複数形にjuiceやpieをつけてしまった場合は、「sはいらないよ!」と言って、単数形にして発音練習をさせましょう。 ・※カットフルーツについて言う場合等は〈(don't) like + くだものを表す語【単数形】〉もOKです。「sがついた形でも言ってみよう!」と言って、複数形で発音練習をさせましょう。 ・余裕があれば、先生がピクチャーカードを使って変えたい単語を示し、生徒に言わせましょう。たとえば、生徒がlike bananasと言ったあとに、先生がappleのカードを示し、生徒にlike applesと言わせます。
5分 (まとめ)	㉔ (クイズ) に取り組みせ、答え合わせをします。 正解を発音させます。 宿題 (①の音声を聞いて、聞いた曜日に○をつけること) を出します。	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は、①にヒントがあることを教えて、正解を見つけさせましょう。 ・正解の発音練習は一斉で行いましょう。 ・㉔ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。

Lesson 9 「わたしはりんごが大好きです」

ねらい

好きなものやほしいものをたずねたり答えたりできるようにする。

※会話編Book①Lesson 6のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L8 ①④ (019) と ② (020) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) →一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (③の単語を書いたか音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
10分	L9 ① (021) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) →発音練習の順に行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させましょう。 ・発音練習は一斉 (1文→対話) →グループ (半分サム役, 半分エイミー役→役入れ替え) のようにパターンを変えて何回も行いましょう。
15分	L9 ② (022) と ③ (023) でロールプレイング練習をさせます。 最初に先生が見本を示し (②でサムのセリフ, ③でエイミーのセリフを言う), 次に生徒に行かせます (一斉)。何度か繰り返して暗記できたら, 先生と生徒, 隣同士や前後の生徒等のペアワークをさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを見ながら行わせ, 慣れてきたら, テキストを閉じて暗唱させましょう。 ・ペアワークでは, Sam のところを相手の名前に変えさせましょう。 ・余裕があれば, ペアワークを発表させましょう。
10分	L9 ④ (024) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 ①と②について, 発音練習をさせます。その後, 先生と生徒, 隣同士や前後の生徒等のペアワークをさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させましょう。 ・次に音声を聞きながらテキストでつづりを確認させましょう。 ・①と②の発音練習は一斉 (1文→1発言[セリフ]→対話) →グループ (半分サム役, 半分エイミー役→役入れ替え) のようにパターンを変えて何回も行いましょう。 ・余裕があれば, ペアワークを発表させましょう。
5分 (まとめ)	㉔ (クイズ) に取り組ませ, 答え合わせをします。 答え合わせのときは, 最初に先生が選択肢を発音し, 次に生徒に発音させて, 意味を確認させます。 宿題 ①～④の音声を聞いて, 聞いた曜日に○をつけてくること	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は, L9 ③に I like apples <u>very much</u>, と I like green apples, <u>too</u>, が, L9 ④に <u>What do you like</u>[want]?があることを教えて, 正解を見つけさせましょう。 ・㉔ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。